

建設産業情報（最近の動向）
（2014年2月1日～28日）

在外公館名 在サウジアラビア日本大使館

記入日 2014年3月4日

1. 現地の建設工事に係る経済情報（建設投資の状況に関する月例報告など）
該当なし

2. 建設業制度、入札契約制度の改正動向
該当なし

3. 報道情報

	タイトル、概要	日付/掲載紙
1	サウジの建造物の平均寿命は 25～50 年であると、タラール・サウジ技術者委員会ジッダ支部長が述べた。彼は、他国の平均寿命（100 年）と比較して短い原因として、粗末な設計と施工、定期的なメンテナンスの欠如、質の悪い建築資材とその使用法をあげ、定期点検や質の良い仕事の重要性を強調した。	2 日 アラブニューズ紙
2	ジッダにおいて、ジッダ商工会議所（JCCI）、遺跡観光庁（STCA）およびジッダ市当局主催の第 4 回観光展示会が行われる。国内旅行の推進と観光分野での雇用創出を目的とし、3 日間の展示に 80 社以上の企業が参加する。	4 日 アラブニューズ紙
3	東部州のある農家が、灌漑用水に下水を使用したことで、50,000SR の罰金、および 2 年間の野菜生産禁止を課せられ、14 の温室はすべて解体された。総損失額は 300,000SR に上る。	4 日 アラブニューズ紙
4	ジザーンの部族指導者達は、地震によって Bisha ダムが決壊し町が破壊されることを恐れ、ダムの水を抜くことを要求している。国立地震センターのハニ・ザフラーン長官は、ダム付近でマグニチュード 6 の地震が起きればダムが破損する恐れがあると述べた。一方、水電力省は専門家を派遣して最近起きた地震による影響が無い事を確認し、ダムが耐震設計されているので心配する必要はないと述べた。	5 日 アラブニューズ紙
5	マッカで 2 本の新トンネル建設へ向けて準備中である。1 本はキング・アブドゥルアジズ通りと大モスクとを結び、もう 1 本はセカンド・リングロードの一部でウムアルクラ通りとマディーナ通りを結ぶ。	6 日 サウジガゼット紙

6	Alsharq 紙は、サウジでは定期的に大雨、鉄砲水、砂嵐等の自然災害に見舞われるが、ひとたび自然災害が起こると、多くの省庁が自然災害に対して準備不足であることが明らかになると報じた。また、数週間前にサウジ全土に降った大雨によって、国民の意識の低さも明らかとなったと報じた。	7日 サウジガゼット紙
7	スルタン・ビン＝サルマン遺跡観光庁長官と Olga Kefalogianni ギリシャ観光大臣は、両国の観光を促進する戦略協定にサインした。	11日 アラブニューズ紙
8	水公社 (NWC) は、総事業費 96 億 SR 以上、207 件以上の事業をジッダで実施中であると述べた。	15日 アラブニューズ紙
9	遺跡観光庁の資料によると、観光分野の GDP は 2012 年に 702 億 SR に達し、非石油部門の GDP を 2011 年と比較して 7.4% 上昇させた。	24日 アラブニューズ紙
10	サウジ鉄道公社のスライク総裁は、ハラマイン高速鉄道事業はマッカージッダ間で遅れが生じているものの、ラービグーマディーナ間は順調に進んでいると述べた。また、ハラマイン高速鉄道の開業にあたり、3,098 人の雇用が見込まれ、そのうち 70% をサウジ人が占める予定であると述べた。	25日 アラブニューズ紙
11	マッカメトロのチケットは、1 トリップ 4SR になると政府高官が述べた。また、サード・アル＝カディ・マッカ・トレインズ CEO は、2019 年第 3 四半期にメトロが稼働予定であると述べた。	27日 アラブニューズ紙
12	専門家によると、サウジの観光産業は、2020 年までに 355 億 SR にまで成長する。	27日 サウジガゼット紙
13	サウジの建築家は、電力消費を 30% 節約でき、建設費を 60% 削減することができるスマートビルディング技術の重要性を主張した。これらの技術の導入は他の G C C 諸国で顕著に増えており、全住宅事業の 40% を占めている。サウジでは、サウジ人が広いスペースを求めることがスマートビルディング技術の導入の障害となり、この技術の導入率は 5% 程度である。	28日 アラブニューズ紙
14	キング・サワード大学の教授は、家庭での水の消費量が毎年 7.5% 増加しており、現在 1 日 800 万 m ³ を超過していると述べた。また、地下水がどんどんなくなっていること、海水淡水化には地下水くみ上げの 8 倍ものエネルギーが使用され、それはサウジのエネルギー消費量の 2 割を占めていることを人々が認識しなくてはならないと述べた	28日 アラブニューズ紙

4. その他我が国建設業界にとって参考となりうる最近の動向（報道情報以外）

労働に関する報道

2日 2011年のニタカットプログラム導入以降、外国人による海外送金は3,836億SR（約10.4兆円）に増加した。これは、一人あたりの海外送金額が2011年の9,200SR/月から、2012年10,437SR/月、2013年12,330SR/月に増加していることを意味する。（ア紙）

2日 低コストで生産能力を上昇させるために、ジッダの多くの工場が外国人労働者を労働法に反して雇い続けている。工場主は、締め切りに追われて資格のあるサウジ人を探す暇がないと述べている。（ア紙）

2日 アーデル・ファキーフ労働大臣は、求職者はオンラインでハーフィズプログラム（失業給付制度）に登録できるようになったと述べた。（サ紙）

3日 若いサウジ人技術者が、ハラマイン鉄道事業やジッダ新空港事業で建設監督を務めている。他にも建設資材の輸送、列車の運転、および維持管理を行っている。（サ紙）

9日 労働資格のある女性店員の不足によって、いくつかの女性専用小売店が閉店した。店主は労働省に対し、女性専門店における男性店員の労働許可と、女性店員の職業訓練支援を求めている。（サ紙）

11日 外国人労働者の取締強化以降、外国人労働者が不足しており、メイドの賃金が上昇した。（ア紙）

11日 2013年は170万以上の就労ビザが発行されたと外務省が発表した。就労ビザは違法外国人労働者の取締強化によって発生した労働者不足を軽減するために発行されたものである。諮問評議会議員は労働省が行うニタカットプログラムに対し、建設的な効果が無いと非難した。（ア紙）

11日 3月13日に、サウジのイベント会社がヤンブーで就職イベントを催す予定である。サウダイゼーションを推し進めることを目的とし、新卒および失業中のサウジ人を対象にイベントへの参加を呼び掛けている。（ア紙）

13日 サウジ人は、サウジ国内の在外公館や、海外にあるサウジ大使館での雇用を望んでいる。数名の諮問評議会議員は、サウジ国内の在外公館におけるサウジの若者の雇用を要求した。（ア紙）

18日 サウジ政府は、間もなく失業対策のための特別組織を設置する。この案は労働省より提案され、現在諮問委員会で検討中である。（サ紙）

19日 若者グループが、ボランティアで墓地やモスク、道の清掃を行った。この活動のスーパーバイザーは、若者の間で清潔であることの重要性を認識し、それを広げ、将来さらに多くの若者の参加を期待すると述べた。（サ紙）

21日 マッカ商工会議所が行った調査によると、昇給によってサウジ人の離職率が減少することが明らかになった。2012年の45～50%から2013年は40%に下がった。（ア紙）

25日 諮問評議会は、裁判官や司法職員の能力向上のための施設設立を決定した。（サ紙）

（注：ア紙：アラブニュース紙、サ紙：サウジガゼット紙）